

調査結果から見てきた経理部門の
リモート化とデジタル化の実態

ファーストアカウンティングが考察した

withコロナ時代に求められる 経理部門の新しい働き方



FAST
ACCOUNTING



調査元：一般社団法人CFO協会
調査協力：ファーストアカウンティング株式会社
発行・編集：ファーストアカウンティング株式会社

経理部門の4分の1はリモートワークで生産性の向上を実感

緊急事態宣言期間の出社理由から アフターコロナへの課題を分析してみた

ファーストアカウンティングは、6月8日から22日まで一般社団法人日本CFO協会が実施したアンケート調査「ポスト・コロナの経理部門の変革に向けた現状と課題」に協力した。財務・経理部門をはじめ、オフィス業務に携わる方々に役立つよう緊急事態宣言期間の生産性、紙書類のデジタル化、高付加価値型機能への転換についてインターネットを通じてアンケートを実施した結果を分析した。

topic 1

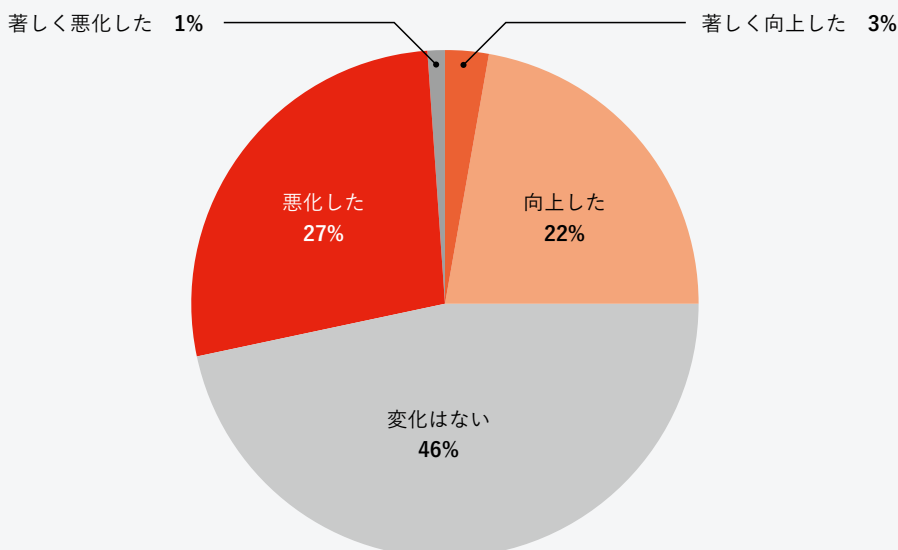
経理部のコロナ下の生産性は？ 意外とできる経理部のリモートワーク!?

緊急事態宣言期間は奇しくも多くの企業における決算作業時期と重なった。コロナが流行する前もデジタルトランスフォーメーションを推進する動きはあったが、財務・経理部門でもリモートワークの実現性を試される機

会になった。「リモートワーク下で、あなたの業務生産性に変化があったと感じますか？」と聞いたところ、図1の回答状況となった。

図1 = リモートワーク下で、あなたの業務生産性に
変化があったと感じますか？

N=339
(単一回答)



「著しく向上した」「向上した」とのポジティブな回答は25%。また、オフィスワークでもリモートワークでも「変化がない」と回答した割合は46%になり、およそ7割以上の方がオフィスでの業務と遜色なく業務をこなすことができたことになる。新型コロナウイルスの発生でリモートワークを強制されるよりも前に、多くのオフィスワ

ーカーが想像していた「リモートワークでは上手く仕事が進まないのではないか」というイメージを良い意味で裏切る結果とも言えるのではないだろうか。リモートワークが「いける！」と分かったことで、今後ますます財務経理部門でもデジタル化が推進されていくのではないだろうか。

リモートワーク下で 生産性が向上したvs悪化したの真相

リモートワークで生産性が向上した人と悪化した人が同じくらいの割合で存在した。その違いは何だろうか。そ

れぞれの理由について、自由記述式で回答してもらった結果をまとめたのが図2である。

図2 = リモートワークで生産性が向上した人と
悪化した人のそれぞれの理由

N=168
(自由記述)

生産性が向上した理由ランク 4		生産性が悪化した理由ランク 4	
1 位	移動時間の削減	1 位	コミュニケーション
2 位	集中力向上	2 位	環境 (PC、インターネット回線など)
3 位	打ち合わせの削減	3 位	資料
4 位	割り込み作業の削減	4 位	準備不足

向上した主な理由	悪化した主な理由
〈移動時間〉 ・通勤にかかるロスが生じなかったため ・通勤時間の負担が減りその分仕事に注力できたため ・移動時間の削減、体力の温存 〈集中力向上〉 ・在宅勤務の方が、集中して業務をこなせる為、アウトプットの量が増加した ・他の従業員といい意味で接点がなくなったことで、業務に集中することができた ・ほかの社員と話をすることなく、時間をとられることなく作業に集中できたため 〈打ち合わせ〉 ・予定外の打合せ等で時間を割けなかったため ・待機時間・会議時間等が削減されたため ・無駄な会議がなくなった。会議時間も短縮できた 〈割り込み作業〉 ・業務遂行上、不必要な割り込みが少なくなった ・急な問い合わせが、以前は「声掛け」でなされていたため、その度に作業を中断していたが、テレワーク中はSlackやメールでの問い合わせになり、問い合わせの度に作業を中断する、ということがなくなったため	〈コミュニケーション〉 ・企画的な業務の場合、他者とのコミュニケーションを通し有用な気づきを得ることがあるが、その機会が減った ・自部門・他部門含めたコミュニケーションのとりづらさ ・在宅ワーク中の監査法人とのコミュニケーションが非効率かつ出社している現場社員の負荷が増大 〈環境〉 環境を理由とする内訳として、主に「PC/モニター」「通信環境」「VPN」などが多かった。 ・ノートパソコンの画面が小さいため ・VPN接続環境の悪さ（速度） ・ITインフラが脆弱でidle timeの増加 〈資料〉 ・過年度に作成した紙資料や専門書籍を参照できないことにより、効率性が低下した ・完全に紙のない状態への慣れが必要で、また紙での処理をメール等に切り替えたことによる事務工数の増大 ・紙の証憑を見る代わりに出勤者がPDF化して在宅勤務者にメール送信、監査法人とのやり取りがメール中心となり効率悪化など

移動や打ち合わせが減ったことで生産性が上がったと答えた方がいる一方で、コミュニケーションを不足で生産性が下がったと感じている人も多くいた。企画やアイデアは対面によって生まれる可能性は大いにあるが、気軽に話しかけて人の時間を奪ってしまっていたこともあるだろう。リモートのメリットと対面のメリットを見極めて、各企業で働き方やコミュニケーションの取り方のガイドラインを改める必要がある。

また、リモート環境で経理部門は、ディスプレイの大きさが作業効率に影響するとの声も多く上がった。資料を

PDFなどにデータ化することで、入力画面とPDFを並べて開く必要があるリモート下では、画面が小さいと業務効率は下がることは容易に想像がつく。

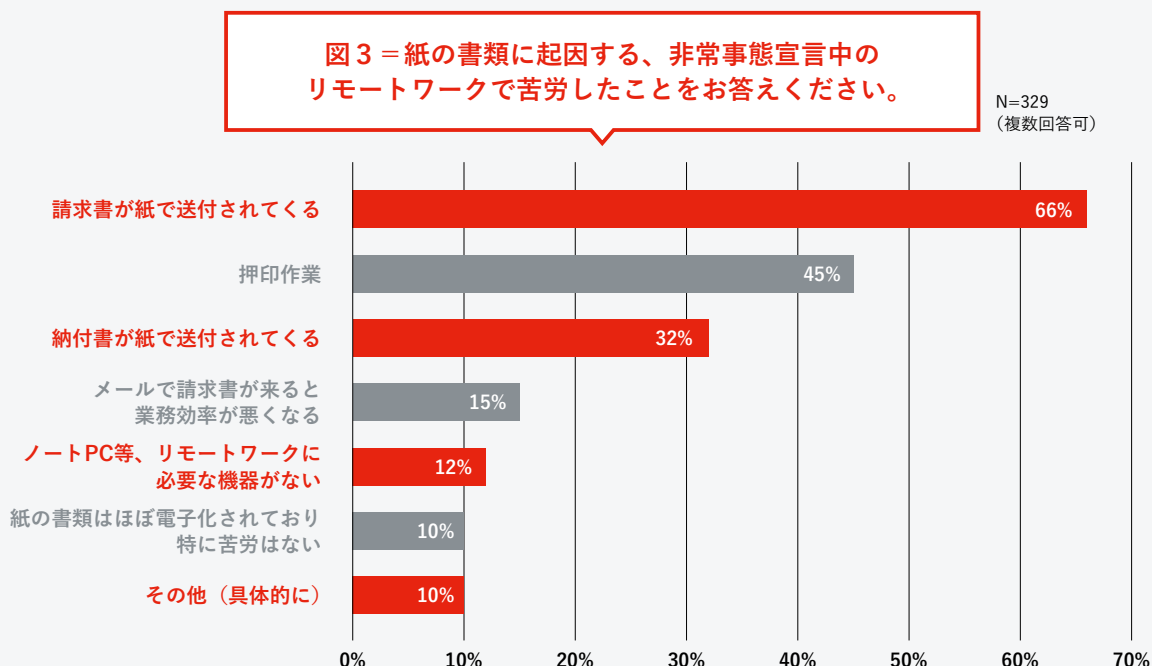
資料に関しては、過去の資料をオフィスでなければ見られないからリモートでの業務が限られるという声があった。セキュリティ面の各社の規定を考慮しながら、インターネットを介して、閲覧できる状態にすることで解決ができるだろう。さらに紙の証憑をPDF化するなどの手間も発生している。

topic 3

リモートワーク下では送付されてくる “紙の請求書”に苦勞

経理部門ならではのリモートワークの課題として、「紙」の書類の扱いである。中途半端なデジタル化が一番、煩雑になるケースが多い。「紙の書類に起因する、非常事

態宣言中のリモートワークで苦勞したこと」を調査した結果が図3である。



経理部門ならではのリモートワークの課題として、「紙」の書類の扱いです。リモートワーク下で苦勞したことを尋ねたところ、「請求書は紙で送付されてくる」ことが最も多い結果となった。続いて、リモートワーク下の苦勞したことで多かった回答が「押印作業」だ。紙・印鑑文化がリモートワークを阻害している可能性が高いことが浮かび上がった結果となった。また、押印作業より、紙で送付されてくる請求書の方が苦勞に感じていることが

わかる。
請求書や納品書のやりとりは自社だけで改善できることはではない。取引先と協力してデジタル化にシフトしていくのはどうだろうか。さらには新型コロナウイルスの早期収束が見えない今、リモートワークを継続する上で、業務プロセスを見直し、証憑を読み取る高度なAI-OCRなどの導入の検討が必須になると考えらる。

topic 4

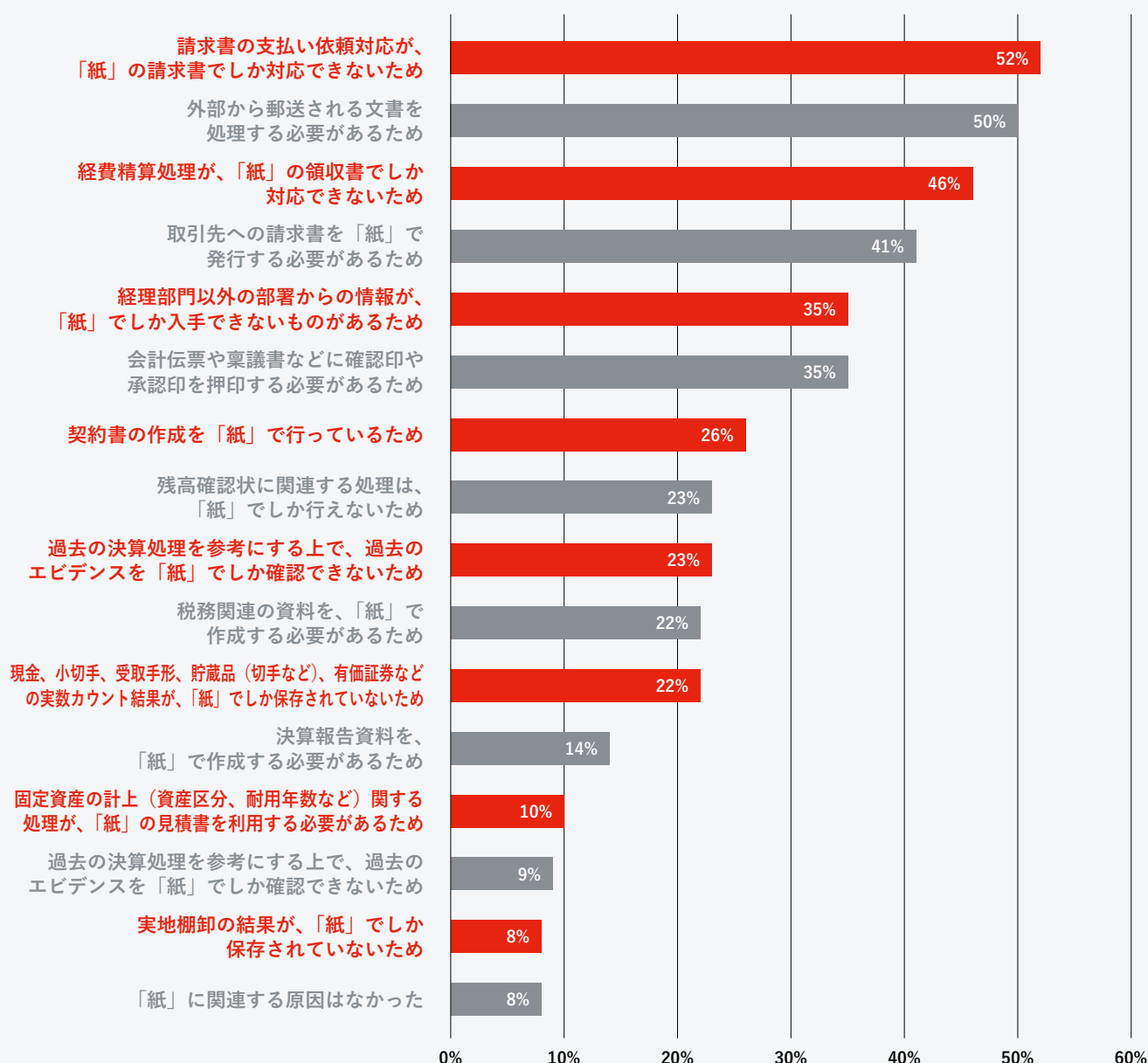
緊急事態宣言下の決算業務では “紙のやりとり”が原因で出社

緊急事態宣言ではオフィスに出向く社員の7割削減するよう政府は企業に要請されていたが、経理部門や財務部門では「全く出社しないで対応できた」「3割未満程度は出社して対応した」と答えた36%にとどまる。これは政府の要請を大きく下回る数字と言えるだろう。とり

わけ財務・経理部門ならではのリモートワークの課題として、「紙」の書類の扱いである。「紙が原因で決算作業に出社しなければならなかった理由」を調査した結果が図4である。

図4＝決算作業に出社しなければならなかったと回答された方への質問です。出社しなければならなかった原因をお答えください。「紙」に関連する原因。

N=328
(複数回答可)



「紙」に関連する理由で決算業務のため出社しないといけなかった具体的な理由として、「請求書の支払い依頼対応が、紙の請求書でしか対応できないため」が最も多い。2005年にe-電子法が年に施行されたが、未だに多くの会社で紙に必須とする支払い業務を行い、取引情報に係る書面を紙で保存していることが伺える。3番目に多い「経費精算処理が、紙の領収書でしか対応できないため」も同じことが言えるだろう。多くの企業では、領

収書の原本＝「紙」の提出が必要となっている。2016年より帳簿保存法の改正により、スキャナ保存が可能になった。経費申請のペーパーレスによるコストダウン、業務効率化の実現を目指すのはどうだろうか。

2番目に多い回答が「外部から郵送される文書を処理する必要があるため」だ。関連企業や協力企業との連携し、リモートワーク化を進めていくことが望ましい。

「ポスト・コロナの経理部門の変革に向けた現状と課題」概要

- ・調査実施：日本CFO協会
- ・調査協力：株式会社ファーストアカウントिंग
- ・調査対象：日本CFO協会会員を主体とした日本企業のCFOおよび経理・財務幹部
- ・調査方法：オンライン上でのアンケート調査
- ・調査期間：2020年6月8日～2020年6月22日

【回答者のプロフィール】

- ・役職：役員26%、部長30%、管理職28%、その他16%
- ・売上高：5,000億円以上31%、1,000億円以上19%、100億円以上28%、100億未満23%
- ・回答者の業種：製造業 34%、情報・サービス19%、商社・卸売業9%、通信業6%、小売業5%

topic 5

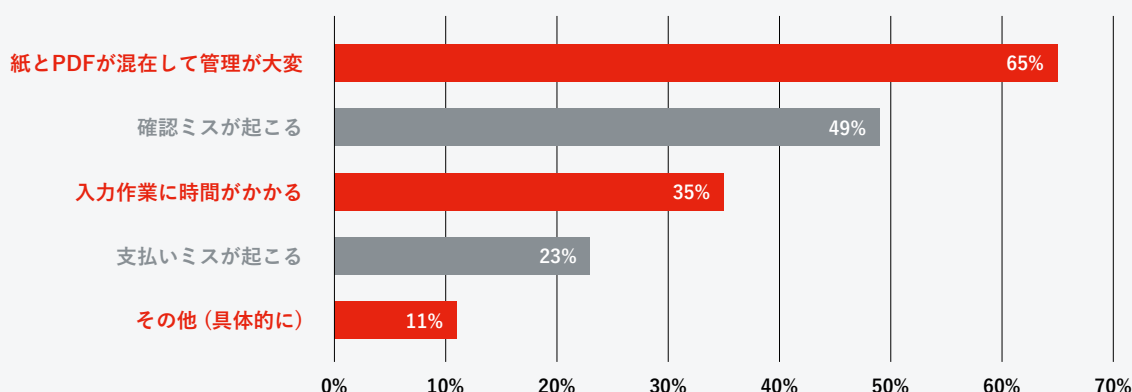
紙とPDFの請求書の混在が効率の悪化に？

「メールで請求書が来ると業務効率が悪くなる原因は何ですか？」と尋ねたところ、「紙とPDFが混在して管理が大変」という理由が多かった。証憑を紙での保存をルールとしている企業では、支払業務も紙での申請が不

可欠になる。証憑の電子化保存を進めている会社では、取引先からもPDFファイルを送付してもらう方がスムーズである。いずれの場合も支払業務のフローを整理しないと、混乱するような事態も発生するだろう。

図5 = メールで請求書が来ると業務効率が悪くなる原因は何ですか？

N=102
(複数回答可)



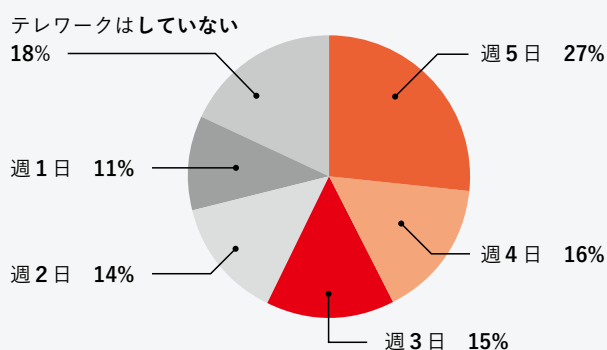
topic 6

緊急事態解除後も70%以上がリモートワークを継続

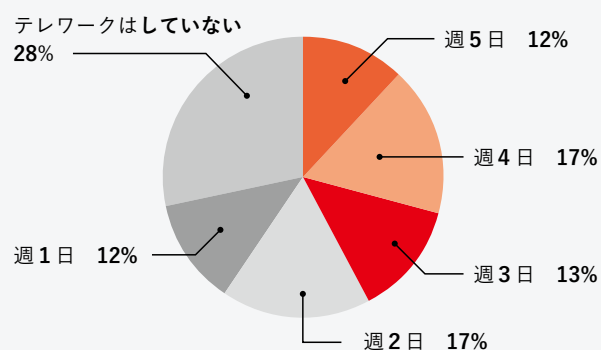
図6 = あなたは平均して週に何日程度テレワークをしていますか？

N=329
(単一回答)

【緊急事態宣言発令中】



【緊急事態解除後】



テレワークの頻度の差はあるが70%の企業がリモートワークを続けていると答えていることは注目すべき前向きな数字である。しかし、緊急事態宣言発令中に「テレ

ワークはしていない」と答えた割合18%、緊急事態宣言解除後に「テレワークはしていない」と答えた割合は28%だった。19%の企業はリモートワークが緊急事態

宣言中もできず、11%の企業は緊急事態宣言の解除に伴ってリモートワークを中止してしまっていることが伺える。

また、テレワークを中止、または、まだ方針が決まっていないと回答した回答者への質問で、「テレワークをしたいと思われますか?」という質問では、「強くしたいと思う」「したいと思う」がおおよそ60%をしめた。多く

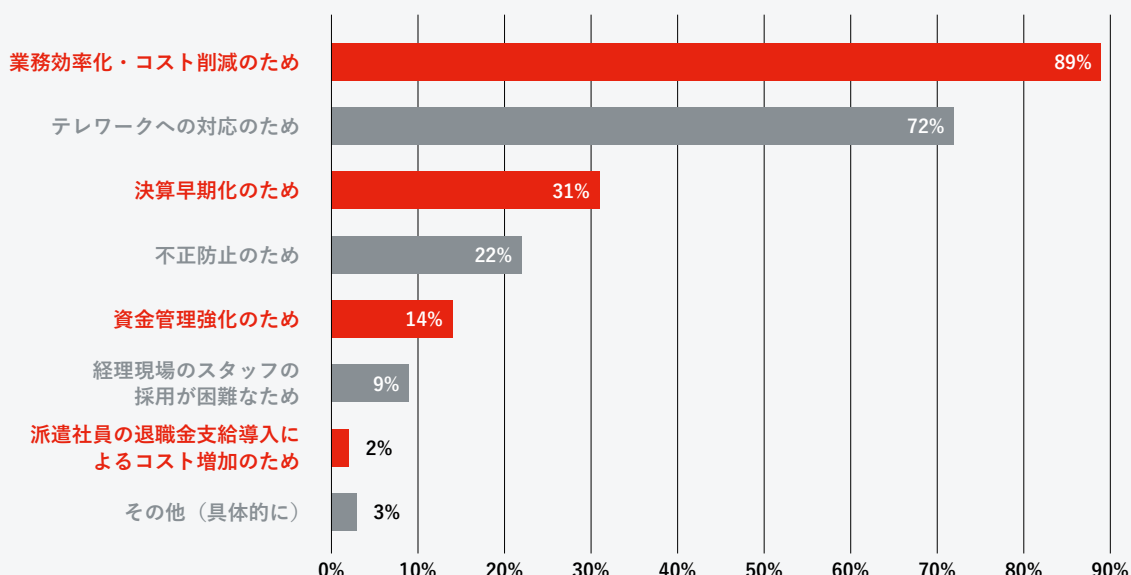
の企業で緊急事態にリモートワークするため対応だったが、今後は本当の意味でのテレワークを実装していくことが必要になる。少子化や過疎化など社会問題も抱えている現代社会においては、テレワークを行うことで、働く場所や環境を選べるようになることで少なからず解消することがある。「ニューノーマル」と言われる新しい働き方に対応していくことが、求められるだろう。

topic 7

ニューノーマルの働き方、不正防止… 複数のメリットがある経理業務のデジタル化

図7=経理部門のデジタル化を促進する必要を感じている要因をお答えください。

N=329
(複数回答可)



「経理部門のデジタル化を促進する必要を感じている要因」で、一番多く挙げられたのは「業務効率化・コスト削減のため」だった。テレワークを導入するきっかけは今回の緊急事態宣言発令だったが、デジタル化していく本質的な目的を「業務効率化・コスト削減のため」と捉えている人が多い結果だと考えられる。リモートワークのためだけでなく、業務効率化やコスト削減のためにも、自動化処理技術やAI-OCRでの証憑の読み取り、タイムスタンプを利用した電子契約書などを導入することを検討することが必須になるだろう。

次に多いのが「テレワークへの対応のため」。収束の目処が立たない以上は、テレワークができる状態にすることは重要である。また、一度変わってしまった生活や価値観は元に戻ることが難しいかもしれない。ニューノーマル時代に向けて、社内制度とデジタル化を含めた職場環境を見直し、働く場所や時間に捉われない多様の働き

方を受け入れる準備をしておくことは大切だ。

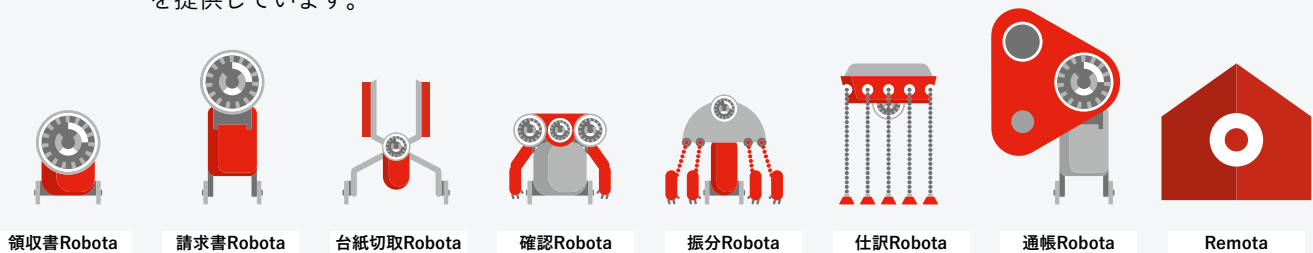
続いて3番目に「決算早期化のため」、4番目に「不正防止のため」という結果になった。タイムリーな経営分析・意思決定を行えるなどのメリットがある「決算早期化」の需要は高まっている。決算早期化により、決算業務を短期間で終わらせ、経理部門のリソースを他の経理業務に当てられるようになるだろう。また、会計業務では「多重請求の防止」「架空請求の防止」「不適切な用途を発見」などの不正やミスを防止することも重要な業務である。不正防止のために、複数の資料やデータを照合したり、支払い内容をチェックしたりする必要がある。今後、AIなどのテクノロジーで処理できる部分を組み合わせれば、より正確にチェックすることができるようになる。デジタル技術を導入することで、より働きやすい環境を作り、より戦略的な経理部門へと組織を生まれ変わらせることが可能になる。

調査結果からファーストアカウンティングが考えるwithコロナ時代の経理

1. リモートワークのメリットとオフィスワークのメリットを整理し、働き方を再考する
2. 業務プロセスを見直し、人の手で行うべき領域や作業と自動化すべき領域を組み合わせ、より効率的にリモートワークとオフィスワークの両立ができるようにする
3. 作業効率や保存スペースの節約なども考慮し、電子契約や電子請求書へとシフトする
4. リモートワークでもスムーズに作業が進められるよう、PCやインターネット回線などの設備を整える

ファーストアカウンティングがリモート化とデジタル化のためにできること

ファーストアカウンティングは、経理業務を効率化するソリューションとして、領収書Robota・請求書Robota・台紙切取Robota・確認Robota・振分Robota・仕訳Robota・通帳Robota・の7つの「Robota」とRobotaシリーズの機能を組み込んだGUIとして「Remota」を提供しています。



手作業の約10倍のスピードで処理

処理金額の入力、勘定科目の仕訳、データのチェックなど多くの時間と人手を要した経理業務を、スピーディーに処理します。

95%以上の高い読取精度を実現するRobotaで向上

スピードだけでなく、目視を上回る正確性で、入力ミスを未然に防ぎます。

迅速な経営状況の可視化が可能

RobotaとRemotaの導入により、今までよりタイムリーに経営状況を把握することが可能になります。

ピーク時でも作業工数を抑え、より戦略的な経理へ

月末の月次決算、支払い業務、決算期などのピーク時でも、定型業務の作業工数を抑え、より戦略的な業務に時間を使うことが可能になります。

経理の負担を軽減し、貴社の生産性向上を支援いたします。

問い合わせ先

ファーストアカウンティングWEBサイト
<https://fastaccounting.jp/>

お問い合わせフォーム
<https://fastaccounting.jp/contact>

ファーストアカウンティング株式会社
〒105-0013
東京都港区浜松町1-6-15
VORT浜松町I 3階



ファーストアカウンティング株式会社は、経理の負担を軽減することによって生産性向上を支援しています。「経理、その先へ」——経理部門において定型業務が削減され、戦略的業務に注力することで企業の生産性向上をもたらすことができるという思いのもと、日本中の企業における経理処理の自動化、生産性向上、ならびにリモートワークや働き方改革に貢献するソリューションを創り上げていきます。

※本カタログの内容は2020年6月のものです。